

みつわっ子



みなさんの☆キラリ☆輝く姿があふれた！学期でした

4月から始まった1学期もあっという間に終わり、いよいよ待ちに待った夏休みを迎えます。1学期の始業式に「気持ちのいい挨拶をすること」「仲間を大切にすること」「掃除を一生懸命し、みんなで学校をきれいにすること」を大切にしてほしいというお話を皆さんにお伝えしました。この1学期、皆さんはいかがでしたか。私は皆さんのキラリと輝くすばらしい姿をたくさん見ることができました。毎朝、門のところで元気に挨拶してくれる人、わざわざ近くまで来て挨拶してくれる人、遠くから大きな声で挨拶してくれる人、そんな皆さんから毎日元氣をもらうことができました。困っている友達を見つけた時にそっと救いの手を差し伸べてくれる人、「大丈夫？」と優しく声をかけてくれる人、そんな姿に心が温くなりました。掃除の時間に黙々と雑巾で床を拭いてくれる人、細かいところにまで気を配り、丁寧に掃除している人、そんな姿に頼もしさを感じました。本当にたくさんの☆キラリ☆が見られた1学期でした。

皆さん自身はどうでしたか。1学期間の自分を見つめ、よくできと思うことは自信をもち、足りなかったと思うことはぜひ2学期の目標にしてください。

さて、明日から44日間の夏休みです。ぜひ、この夏、“本気”になれることを見付けてください。「好奇心は人生を何倍も楽しくする魔法だ」というアインシュタインの言葉にもあるように、何か興味をもったことやチャレンジしてみたいことにぜひ取り組む楽しい夏休みにしてください。この時間を有意義に使えたとき、きっと大きく成長することができるでしょう。そんな自分を成長させることのできる楽しい夏休みにしてください。

「着衣水泳」

日常生活の中で水に落ちてしまったとき、また、水に落ちた人がいる場面に遭遇したときに、どのようなことができるのかについて学んでもらうため、5・6年生が「着衣水泳」の学習をしました。

服を着たまま水に落ちてしまうと思っている以上に体が重く感じます。実際に泳ぐとなるととても難しいです。そんな中で、大切なことは救助が来るまで浮いていることです。救急隊が到着するまで9分から10分と言われています。しかし、10分間も自分の力で浮いているのは至難の業です。そこで、身近にあるもので、どのようにしたら浮いていられるのか、どんなものが使えるのかについて、実際に考え、経験してもらいました。背浮きの方法やバケツやペットボトル、ボールやロープを使って浮く方法など、様々な方法で浮くことができることを経験してもらいました。また、水に落ちた人を発見したときに何が大切かも伝えました。決して助けるために水に入ってはいけません。自分が落ちたときに浮くことができるように準備した上で、外から浮けるものを投げ入れたり、ロープを入れたりする方法を学んでももらいました。このようなことは起きないのが一番なのですが、万が一、そんな場面に遭遇したときに「命」を守る行動が取れるようになってほしいです。



★キラリさん 見つけた★

毎日、学校で過ごしている中で私が見つけた、子どもたちのがんばる姿やすてきな姿を紹介していきます。

とある給食後の片付けの時間。私がある教室の前に行くと、その近くでお箸の入ったかごを持って歩いている人がいました。その時、そのかごが傾き、中のお箸が落ちて、床に散らばってしまいました。するとその後ろから通りがかった一人の女の子が「大丈夫～」と言って、その落ちたお箸を一緒に拾ってくれたのでした。目の前の困っている人に自然にそっと手を差し伸べてくれたその姿にとっても心が温くなりました☆こんな姿が2学期にもたくさん見られることを楽しみにしています。